

茅風

— Breeze from the field of thatch-grass —



2004 年 9 月 16 日
森林塾青水
事務局便り
茅風通信 11 号



木の実どち日ごと色づく里の朝 (青)

— 今号の目次 —

- 第3回講座「コモンズ村ふじわら」& 塾フィールドスタディ
 - フィールドスタディ整備作業 1
 - 加藤さん(前林野庁長官)からのお便り 2
 - 古老ヒアリング「入会地の過去・現在・そして明日」 2
- 団体受入・自然ふれあい学習プログラム
 - 麗澤中学「水源の森フィールドワーク」 4
 - 川口市「チャレンジ教室」/富田良子 6
 - 千葉GS80団「上ノ原のフィールドに行って」/浅川瑞季 7
- 会員からの報告
 - 藤原湖マラソン大会/出水周二 7
- 事務局からのお知らせ
 - 「緑と水の森林基金」助成金決定!! 8
 - 10月フィールドスタディのご案内 9
 - 11月フィールドスタディのご案内 10
- 編集後記—塾長のつぶやき— 10

■第3回講座「コモンズ村ふじわら」& 塾フィールドスタディ報告

◆フィールドスタディ整備作業

当塾7月のフィールドスタディは、講座「森林コモンズ村・ふじわら」の第3回プログラムと合わせて行いました。

1. フィールドワーク; ススキ草原再生のランドデザインに沿った草原ルートの道普請と水汲み場整備(石組み、石畳の造作等)に、総勢30名余各が参加し、汗を流しながら学びました。
2. 古老ヒアリング; 「入会地の過去・現在・そして明日」というテーマで、林好一氏に旧入会地だったススキ草原の歴史や使われ方等のお話を聞き、今後のあり方を共に考えました。



水源地の看板「杵の泉」



水汲み場整備中



十郎太沢に橋を



水源地への道普請



水汲み場整備後



水汲み場の看板「飲水資源」

◆加藤さん（農林漁業信用基金副理事長・前林野庁長官）からのお便り

7月のフィールドスタディに参加していただいた、加藤さんからご感想と励ましのお便りをいただきました。ご本人のご了解をいただきましたので、以下ご披露申し上げます。（清水）

先日は、ありがとうございました。楽しい時を過ごさせて頂きました。入会慣行を復活させたいという話をお聞きした時は、茅場を中心として新しいあり方をつくり出すことができるだろうかというのが率直な思いでした。

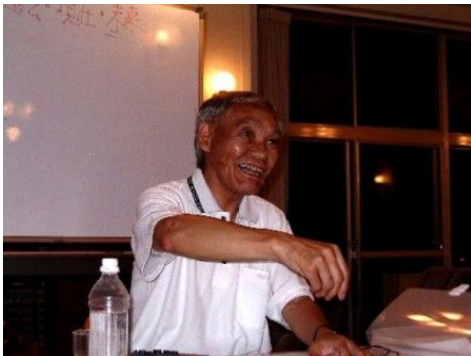
人と人のつながりが希薄化し、人や物との関係を金銭で計ることが当然になり、金銭で計れない価値が片隅に押しやられている現在、そのことの意義は認めつつも、森林利用や農業のあり方が変わり、それに伴って集落も様変わりして、茅の利用もなくなり、入会慣行が失われていったという時代の変遷を考えれば、新しい形をつくりだすことは容易でないと思うからです。

逆にもう一つの関心は、古民家の保存などを考えた場合、茅の確保はどのようになっていくかということです。実は、茅だけではなく檜皮や補修用材まで問題はすでに及んでいるのですが、これからの大切な問題と考えています。

そんなこともあり、今回参加させて頂いたのですが、ボランティアの力というごとを改めて感じました。自らの思いを持ち、楽しんで参加する人々の力によって、新しい事が始めうる。そして、それを継続できれば、きっかけが作りうるということです。そのことが、波紋として地域の方々の中に広がっていくことになれば、地域を見直す刺激として生かされ、さらに新しい動きにつながることになるでしょう。そのこともあって、水上町をはじめ、地元との連携に苦心されていることもよく理解できました。きっかけはできようとしている感じでしょうか。今後を期待します。

加藤 鐵夫

◆古老ヒアリング「入会地の過去・現在・そして明日」コモンズ第3回／林好一氏講演の要約 川端・海老沢



● 地域生活に不可欠だった入会地

戦前から戦後にかけて、藤原は「秘境」でした。群馬県水上の藤原というけれど、山をひとつ越えるとそこは新潟。辺鄙な場所でした。しかし藤原は自給自足ができます。貧しいけれど安定した生活がありました。まがりなりにも米がとれ、そのほか炭焼き、植林、伐採、山菜採り、キノコ採り、養蚕（原蚕飼育）なんかが当時の仕事でした。

家近くの里山には、個人所有の山や農地がありました。でも、家を作る材木、燃料用の薪や炭、屋根葺きの茅、馬の飼料、肥料にする草や落ち葉、山菜、そして蚕に食べさせる桑の葉などは、個人の所有地だけでは間に合いませんでした。地域での持続的な生活のためには、どうしても広大な入会地が必要だったのです。

● 上ノ原 大正10年に水上村へ、昭和40年にコクドへ

入会地としてのカヤバには、「上ノ原」、「宝台樹山」、「樺山」などがありました。

面積の大きいのは上ノ原でした。明治6年（1883年）に官有地になってからも、入会地としての利用は昔どおり自由にやっていました。大正10年（1921年）には、「国有林野不用存置」という決めがあって、上ノ原219町6反4畝9歩は、1万5千28円で当時の水上村に払い下げられました。

水上村はその後、昭和2年（1927年）から6年間、上ノ原の78町歩にカラマツを植林します。ところが昭和34年（1959年）、15号台風でたくさんの木が被害を受けてしまいました。しかし世の中は木材不足の時代。被害を受けたカラマツでも、搬出した1500～1600石が206万500円で売れたとのこと。そして昭和40年（1965年）、上ノ原は坪100円という値段で「国土開発」へ売却されたのです。

宝台樹山の場合は7割が国有林に編入されていましたが、「採草組合」を作って採草地として利用を認めてもらっていました。

● 山の口明けは話し合いで 違反者の罰則は特になかった

入会地には、「山の口明け」という一定の制約がありました。口明けの日は、その年の区長が「触れ」を出して各集落の仕長（組長）を集め、「寄り合い」で決めました。その年の草の芽の伸び具合なんかを見ながら決めたと思います。

口明けに違反した場合の罰則は、藤原の場合は特にありませんでした。文書としては残っていません。藤原の家はみんなドングリの背比べで、同じような程度の農家ばかり。お互いに気をつかって暮らしていたし、だれもそんな笑いものになるようなことはしなかったのでしょう。

● 入会権を継ぐのは長男が基本

カヤバを使っていいのは入会権のある人だけです。それは、家を継いだ長男でした。次男などは生家を出るわけですが、場合によっては「新宅」として家を構えることがあります。その際、田畑や山が分配され、本家の入会権の一部をもらって出るという形になっていました。

当時、異なる集落や区から移ってきた家は「よそ者」と呼ばれていました。よそ者は、地区の役員になれないという慣習がありました。上ノ原のすぐ下に戸数18軒の山口という集落がありますが、そこには「よそ者」が何人かいて、その家には組長の役は廻ってきませんでした。こういうことがごく最近までありました。

● 青草、萩、葛の口明けもあった

「カッチキ」は自由に刈ることができました。春の田植え前の田んぼ一面に、細かく切った青草を散らして踏み入れ、肥やしにするのです。これがカッチキです。「カッチキ」は「刈り敷き」が語源かと思われませんが、藤原では雪の上を歩くカンジキもカッチキと言います。

「カッポシ」も自由に刈れました。真夏に青草を刈って乾かした「干草（ひぐさ）」のことです。馬に食べさせたり馬屋に敷き込んだりしました。馬が踏んだものを2～3ヵ月に一度、「モッコ」で担ぎ出します。「肥え出し」です。これは、畑の隅などに積んでおいて堆肥として使いました。

「ハギトリ」は「萩採り」です。秋の彼岸明け、萩の花が終わり、実が入りすぎない時期が口明けの日でした。刈り取った萩を保管しておくとうちが乾き自然に落ちます。これを冬のあいだの馬のえさにします。雑穀類と混ぜ、大きな鍋で煮て食べさせるのです。萩の茎の方は、串柿に刺す棒として使ったり、いろんな使い方をしていました。藤原には竹がなかったのです。

「クゾバドリ」は、葛の葉を採ることです。10月10日が口明けとして決まっていた。馬の餌、ウサギの餌、ヤギの餌として大いに利用されました。茎は枝を取り除いてふたつに裂き、縄の代わりに使いました。今でも使っている人がいます。

● カヤ刈りは屋根替え用を優先

カヤバの利用でいちばん重要なのが「カヤカリ」です。屋根替え用を優先して刈り、その後、10月末から11月にかけては炭俵、養蚕のカヤマブシ、家屋のフユガキ（冬垣）のためのカヤ刈りをしました。

屋根替えをしようという家は、あらかじめ仕長や区長に申し入れをしておきます。そうするとその家のカヤの確保が優先されるのです。カヤ刈りの日は、8月のお盆のころの区長たちの寄り合いで大体の日を決めたようです。カヤ刈りもカヤ出しも、地区の人が総出でおこないました。屋根替えは、雪の消えた翌春4月から5月におこなわれ、「ヤネコボシ」、「ヤネフキ」は村中の人を手伝いに来ました。人足はすべて「エエ（結い）」です。出られない人は「ワタマシ」といって穀類やお金を持参しました。

● 山菜採取は自由

カヤバでは、ワラビ、ゼンマイ、フキ、ウドなどの山菜採取もおこなわれました。秋から次の年の春にかけては、ワラビの根、そして「カズラ掘り」（葛の根掘り）がありました。どちらもでんぷんを採るものです。

戦後の食糧難の時代、カヤバの一部を焼いて蕎麦や粟を作ったこともあります。「カンノ」と言いました。いわゆる焼畑です。これは入会権を持っていないとだめでした。

カヤバでは春早く、雪の消え間の様子を見ながら火入れがおこなわれました。カヤとか山菜の出がいいようにと、区長や仕長が中心になって毎年やっていたようです。

● 森林の入会利用は組合組織で

カヤバ以外に森林の入会地がありました。薪や炭にする雑木の利用、キノコ栽培のホダ木、建築用材の植林・伐採などは、江戸時代からの入会地もありましたが、維新後の官地の払い下げによる入会地が多く利用されていました。その場合は、組合組織を作って利用していました。

● 山には12の神様がいて 藤原の「十二様」（別紙①「十二様の読み方と出自について」参照）

十二様は、大山祇神（おおやまつみのかみ）をはじめとする山に住む12の神様です。加屋野姫神（かやのひめのかみ）という「野の神」もいます。「鉄砲ぶち」が獲物で儲けたというようなことがあると、そこに十二様を祀ったりするので、藤原には数え切れないくらいの十二様が、あちこちに祀られています。

山仕事で山に入る前には、必ず十二様にお参りするという慣例があります。藤原ではまた、旧暦の2月12日と10月12日を山に入ってはいけない日とされていました。そのほかの月の12日は、山に入ることは

いが立木を切ってはいけない日です。「十二講」という十二様の祭りもありました。12日の山仕事の休みに、男衆が仕長の家に集まって酒を飲んだりしていたそうです。

● 電源開発で観光地に

昭和30年(1955年)の須田貝ダム、昭和32年(1957年)の藤原ダム…。藤原は電源開発でダムと発電所が次々に完成し、観光地化していきました。ダム景気で仕事はいくらでもある、農業のかたわら民宿もできる、食堂も…と、秘境藤原は一大観光地に変身していきました。

電源開発と同時に、上ノ原などには、山菜を目的に県内外から大勢の人が入って来るようになりました。そしてタバコの火なんかが原因で、シーズン中に5回も6回も山火事が発生するようになります。地域の青年団が警戒に当たったのですが、最終的には「入山証 青物採取券」というチラシを配って料金を取ることにしました。上ノ原だけでなく、宝台樹山や樺山など、山の入り口に係員を置いて、最初は30円くらい、最終的には100円くらいを徴収したのです。料金は、藤原区全体の特別会計という形でストックしました。料金の徴収は昭和25年(1950年)ごろから始まり、共有地を処分した昭和40年(1965年)まで続けました。

● 姿を変える入会地、過疎化する藤原

入会地はやがて、レジャー施設などへと姿を大きく変えていきます。上ノ原は国土開発のゴルフ場に、宝台樹山はキャンプ場やスキー場に、樺山は今や自然林となっています。なかでもスキー場は一時期たくさんの人を藤原へ呼び込みました。「リフト30分待ち」というにぎわいが続いたのです。でも今は、スキー客は最盛期の10分の1です。

藤原は過疎と少子高齢化が大きく進んでしまいました。昭和32年、藤原小学校に入学した1年生は48人いました。それが今、小学校ぜんたいで20数人というありさまで。藤原は子どものいないムラになってしまいました。

● 明日の藤原、いま頑張っておきたい

藤原の山林原野は今、荒れ放題です。木を切り再生することで山は維持されてきたのですが、今はそれが無い。かわって、むかしはめったに見られなかったサルやカモシカが増え、人の生活に影響を及ぼすようになってしまいました。

しかし藤原にはいま、ある種の活気が出てきています。私たち中高年は、力をひとつに合わせて次の世代に渡せるものを作りたいと思っています。「田園空間構想委員会」というのがいま動いているのですが、共有のもの、共有地の新しい使い方を考えようとしています。「雨呼山」という共有地での提案・実践もそのひとつです。

「森林塾」や「コモンズ」の活動も意味があります。それを地域の人が見て、若い人のなかに新しい動きが出てくるかもしれません。入会地をどうするかは藤原をどうするかです。すでに手遅れかもしれませんが、私たちの頑張りを若い世代に見せ、将来はやはり若い人に託したいと思うのです。

■ 団体受入・自然ふれあい学習プログラム報告

◆ 麗澤中学「奥利根水源の森フィールドワーク」

麗澤中学の「自分プロジェクト」の一貫として、5月に南柏の麗澤中学校内で樹木観察会を行いました。今回は水上町奥利根水源の森と上ノ原フィールドにてフィールドワークを行い、中学1年生105名を森林塾青水と水上町が共同で受け入れました。

■ 奥利根水源の森フィールドワーク

水源林で森の生態系を感じながら、途中15分くらい各班のテーマに沿った調査・採取を行いました。

午前Aグループ(53名)、午後Bグループ(52名)

- 1コース こもれびのみち(18名程度) イストラクター: 高野史郎、松土忠、浅川潔
キャンプ場→ヒコイトウ駐車場→こもれびのみち田代湿原→ヒコイトウ駐車場→キャンプ場
- 2コース せせらぎのみち(18名程度) イストラクター: 広川義直、高橋泉
キャンプ場→ 森林浴のみち駐車場 → せせらぎのみち → キャンプ場
- 3コース 木の根沢さんぽみち(17名程度) イストラクター: 湯本信康、中島武
キャンプ場→ 木の根沢さんぽみち→ バス移動→ ブナの森のみち→ キャンプ場

■ 上ノ原フィールド

地元藤原古老の林親男さんから茅原と生活との関わりについて、歴史や文化、産物等についてお話を聞きました。その後、スケジュールと管理地の説明を清水塾長から聞き、フィールドの散策のグループと茅編み体験ミニすだれ製作のグループに別れて体験学習しました。

- Aグループイストラクター: 富田良子、林親男 Bグループイストラクター: 清水英毅、佐藤喜代、
Cグループイストラクター: 海老沢秀夫、林好一 Dグループイストラクター: 岡田伊佐子、中野慶子



◆麗澤中学生徒さんからお礼のはがきが沢山届きました。一部だけですがご紹介します。

インストラクターの皆様、お元気ですか。僕は水源の森で飲んだ水とマイナスイオンのパワーでがんばっています。皆様のおかげで自然の楽しさについて学ぶ事ができ自然の中でくらしをしてみたいと思いました。今日は、本当にありがとうございました。1年B組 小西

拝啓
先日は「奥利根水源の森フィールドワーク」でいろいろなことを教えていただき、ありがとうございました。上ノ原フィールドではかきです。あれを作る方法や、かき、屋敷の歴史、雪の積もり方、奥利根の水源のすぐそばの水のおいしさを知りました。そして水源の森では森づくりの危険、ブナの木の活用の仕方、他にもダケカンバ、チマキサ、マダビなど、いろいろな樹木のことを教えてもらいました。上ノ原でも水源の森でもまた教えてもらいたいです。上ノ原でも水源の森でも川遊びも楽しかったです。インストラクターの皆様、本当にありがとうございました。

敬具

インストラクターの皆さんへ

この度は、ありがとうございました。

奥利根に行ったことで私はいろんなことを学びました。

一番心に残ったのは、川の水を飲むこと。水がすごく冷たくてのどがひややとしました。

一面に生えた萱原は、私の頭の想像をこえたものでした。

今の私には、あの1日のできごとが頭から消えませんが、本当に貴重な話を聞かせてくださり、ありがとうございました。

◆麗澤中学プレゼンテーション(9月11日) 当塾からも代表者3名が参観させていただきました。

先日はお忙しい中私達にとってもためになることを教えていただき本当にありがとうございました。十郎太の泉で飲んだ水、上ノ原の山で食べたくわの実、奥利根水源の森のブナのはだかつめたかったことなどこの三日間で学んだことは忘れません。今回学んだことを文化祭に活かしたいと思います。もし時間があつたらいつか下さい。これからもがんばって下さい。

拝啓

皆さん、お元気ですか? 私は、元気がありません。理由は、上ノ原フィールドでつくたがや編みは、とても良い体験になりました。家に持って帰り、家族に見せると「すごい」と言われました。フィールド探索で飲んだ水は、とてもおいしかったです。木のかけらにのこがいのとでは、ずいぶん温度が変わるので、びっくりしました。

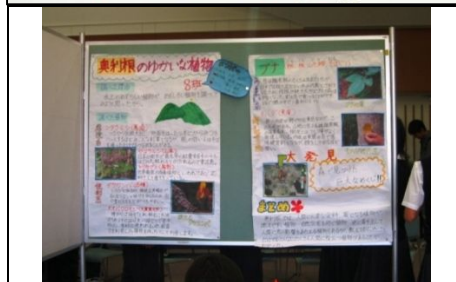
自然観察の時は、初めて見たものばかりで、おもしろかったです。例えば、ブナの木にしが、ナメクジなどを見たり、ヒルかと思ったりしました。カエルにも4匹もいました。本当に短い時間でしたが、自分自身に、でも、自然に、感動になりました。自然を良く知りました。本当にありがとうございました。

敬目

○ 拝啓

お元気ですか。先日はお世話になりました。水上の森と柏では、気候だけでなく、森全体の雰囲気や水の味もだいぶ違いました。ぶなの森で驚いたことは土の質の違いでした。落ち葉のある部分はとてもフカフカして気持ち良かったです。上ノ原のカヤ原の水もとてもおいしかったです。あの水を飲んでから柏の水道水が飲みたくなりしました。水上へ行って改めて自然の大切さを知ることができ、ありがとうございました。

敬目



2004年8月7日土曜日に川口市「チャレンジ教室」の中学生15名を上ノ原フィールドに受け入れました。市の教育関係者6名が引率し、青水スタッフ10名と水上町役場2名が対応いたしました。

学校が好きでない中学生とのことであったが、自主的に自分たちのグループ名を名づける。「ナイト、サイダー、ブタゴリラ、ドラえもん」の4グループが誕生。早速、茅原育ちの白樺を切り倒しての名札作りに励む。

水のみ場より茅原を上る。途中、草刈のとき足許に落ちていた「虎枝(イタドリ)」で笛を作り、「サウンドマップ」の導入。林の中で、落葉のクッションを味わう。蝉や小鳥のさえずり、木の葉のささやき等に耳を傾ける。

「涼しいね! 山に住みたくなったよ」、山を想い出す香り・・・クロモジ、山が鳴る、ドーン「こわいなあ」。

空があやしくなると、茅のヤブコギで下山～昼食～大雨。

午後から「宝さがしーゴミ拾い」。人工物と自然の物についてわかち合い。最後は木工～ミニスダレ、箒作りでまとめ。一時はバスの中でカミナリよけ。これも自然を知るきっかけになったのではないかな。その後の彼らに会えるかな?



今後の課題 ; 四季を通した茅原を充分活用するための

○メニューの用意

春～新緑の風景 うたに俳句(ことばあそび)、春の芽を食べる、スケッチ、写真

夏～昆虫、鳥〔春?〕

秋～カヤ原の秋の七草、紅葉のしおり作り、カヤ編み、茅の輪以外にも考える

冬～タネ、雪の足跡、動物のフン

○私はこんなことがしてみたい; 「こんなことが出来る」を持ち寄る

○材料のストック; ハギ、白樺など切り倒した木の管理・・・工作用、小枝、太い木

○備品の整備; 目録台帳をつくる ～ 係を決める

以上、思いつくまま。



◆千葉ガールスカウト80団浦安「上ノ原のフィールドに行って」

浅川瑞季

ガールスカウトで、上ノ原のフィールドに行きました。そこには、花や木がありました。ちょっと歩くと、水があってとてもひんやり冷たかったです。そのフィールドでは、さるや熊がいると聞きました。熊の巣もあるそうです！？それにはわたしもビックリ！

上のほうに行くと、おじさんが紙をわたしたのでなにかな？とおもったら、「紙に、聞こえる音を絵にかいてごらん。」ってだったので書いてみたらいろいろな音がきこえてきました。例えば、水の音、風の音（木のゆする音）、鳥の鳴き声、が聞こえました。

少しおりて行くと、清水さんたちがかやの家の屋根にすわっていました。そこで、わたしたちも寝ころんでみました。そうしたらとても気持ちがよくて景色がさいこうでした。そこから、下におりるためにすすきをかきわけておりました。とても楽しかったです！！



下におりたらおにぎりを食べました。そうしたらとりたてシンセンのトマトを渡してくれて、食べたらとてもおいしかったです！（わたしはトマト大好き）。そのあと、クラフトで、木のえだで鉛筆を作りました。自分でもとてもうまくできたと思います！！

キャンプ場に帰ってから、ミニすだれ作りをしました。みずきは、何回かやったことがあるのではやりました。（笑）でも、ひさしぶりにやったので忘れてしまいました。

森林塾青水のみなさまお世話になりました。ありがとうございます。

■会員からのご報告

◆藤原湖マラソン大会に参加して

出水周二

ご無沙汰しております。8月21日（土）～22日（日）に掛けて、水上町藤原ダム湖一周マラソンに行ってきましたのでご連絡致します。

宿は藤原の「やすらぎ荘」（藤原スキー場前）を取りましたが、ここのご主人さんが気さくな方で、我々の活動の話になると知っている事を次々とお話してくれました。特にお祭りの事や、お寺、神社の祭事、出会い、入会の件も良くご承知でした。こんな貴重なお話は息子さんや、ご家族方にお伝えしていますか？と聞いた所、ほとんど一度くらいは話をするが、多分忘れてしまっているだろう・・・との回答でした。

何か地図の端でもよいので、気が付いた事は何かに残して置いて下さいね、とお願いしてお別れしましたが、良くお話に乗ってくれる気さくな奥様と共に心に残る宿となりました。



やすらぎ荘の前で
群馬県利根郡水上町藤原4954
0278-75-2448 中島正二



マラソン大会は初めての参加ですが、クロスカントリーと言った方が説明しやすいくらいのハードなコースでした。なんせ車でもセカンドギヤで上がるくらいの坂の連続で、なんとなかなだろ～と、たかをくくっていたのが裏目にでてしまいました。距離は12kmと手頃ですので、ゆっくり流す分には絶好の景色で、楽しめると思います。腰越町長じきじきのスターターもあり、この時期には珍しいマラソン大会としては1000名のエントリー、しかも通算47回目は素晴らしい実績と思います。

■事務局からのお知らせ

●「緑と水の森林基金」助成金

6月に「水上町藤原地区の地域資源活用調査事業」を国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」公募事業助成金申請しましたが、9月初に採択されたと通知が届きました。助成申請金額は143万でしたが、助成決定額は80万円でしたので、少し事業修正を行わなければなりません。今まで森林塾の活動の中で蓄積された情報を整理し、また、足りない情報を収集して、データベースを作成し、今後の地域活性化のメニューづくりをおこないます。今月からプロジェクトチームを立ち上げ、実施していきます。皆さまのご協力をお願いいたします。

平成16年度「緑と水の森林基金」公募事業は、「国民参加の森林づくり」運動を推進するため全国の民間ボランティア団体等が実施する事業、130件に助成されました。HP [緑と水の森林基金公募事業](#)

※申請内容は、以下の通りです。特に事業内容にご注目下さい。

事業名	水上町藤原地区の地域資源活用調査事業
事業の目的及び概要	当会管理地の奥里山、藤原地区の地域資源を把握し、その活用方法を地元住民、自治体と共に検討し、その今日的有効活用と都市住民向け体験メニューを開発し、当地域の振興、活性化に資する。
事業の類型	2. 調査研究 (4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査
事業の内容	1. 調査内容 (1) 地域資源の把握 自然(地勢,気候,動植物,植生,水,川,山,等) 風景(集落,眺望,景色,建物,土地利用,等) 歴史(伝説,伝統技術,民話,生活様式,神社,仏閣,等)生活文化(地場料理,芸能,祭,風習,名人,人材,地域行事,等)地場産業(特産品,農作物,炭焼き,木工,等)の項目について把握する。 (2) 地域資源のデーター整理 地域資源マップ、資源情報カードを作成し整理する。 (3) 活用方法の検討 資源の有効利用検討、森林文化体験メニューを作成する。 2. 調査実施方法 (1) 現地調査 ：現地踏査、集落の路上観察会を地元と共同実施 (2) ヒアリング調査 ：古老、郷土史研究家などのヒアリング (3) 資料収集整理 ：郷土資料室、役場、郷土研究家などの資料借用 (4) 地元住民と検討会
募集対象者	15名
参加予定人員	地元住民10名、地元外の者25名
実施場所	群馬県水上町藤原地区（主に中区）
事業の実施による波及効果	当調査により地元住民の意識改革、資源の商品化、生活文化の継承、環境学習受入やグリーンツーリズムなどが促進され、地元には都市住民が多く訪れ、利根川流域の上下流交流が活発になり地域の活性化となる。
事業実施期間等スケジュール	事業実施期間 平成16年9月～平成17年8月 事業実績報告書提出予定 平成17年8月

森林塾青水・10月フィールドスタディのご案内

当塾10月のフィールドスタディを講座「森林コモンズ村・ふじわら」の第5回プログラムと合わせて下記の通り行いますので、ふるってご参加下さい。

— メインメニュー —

1. フィールドワーク

グラウンドデザインに沿った道普請で汗を流しながら学びます

- 森（ミズナラ林）の散策ルートの整備を行います
- 7月に行われたフィールド整備の状況を確認し補修します

2. 藤原を知る

- 藤原の集落紹介（自然、歴史、文化、など）
- 4月の火入れビデオ上映

■ 日 時 平成16年10月2日（土）～3日（日）

■ 宿泊場所 ペンション「ラ・ネージュ」群馬県利根郡水上町宝台樹 3831-7

TEL 0278-75-2828 <http://www.la-neige.com/>

参加費 10,600 円（1泊2食宿泊費＋1日分昼食）人数がまとまれば割引交渉も可能

■ スケジュール

日	時 間	内 容
10月2日（土）	8：04	東京駅発 たにがわ433号 大宮駅発8：30
	9：25	上毛高原駅着 現地まで迎車用意します
	10：30	現地集合（上ノ原フィールド広場） ※車の方は直接お越し下さい
	10：30 ～	フィールド作業
	12：30	昼 食（弁当あり、要：事前予約）
	13：15 ～	フィールド作業 地元古老の指導を仰ぎながら、地元会員、講座コモンズ受講者と共に汗を流します
	17：00 ～	夕 食
	19：15 ～	藤原の集落紹介（自然、歴史、文化、など） ・ 4月の火入れビデオ上映
10月3日（日）	21：00	
	7：00	朝 食
	8：30 ～	フィールド作業（道普請）の続き オプション実習でススキ草原の草花ウォッチング&昆虫・蝶採取
	12：00	昼 食（宿の弁当）
	14：00	現地解散（最寄り駅まで送車あります）
	15：20	JR上越線水上駅発
	15：32	上越新幹線上毛高原駅発 Maxたにがわ446号
	16：48	東京駅着

■ 道具類

塾でカマ、トウグワ、ノコギリ、ナタなど用意しますが、各自道具があればご持参ください。
その他カメラ、ルーペ、昆虫採取用具などご持参ください。

■ その他；草原の蝶や昆虫などに詳しい方大歓迎

■ 問い合わせ先 東京 03-3345-1390 清水塾長（扶桑レクセル監査役室）
水上 0278-72-2111 木村幹事（水上町観光商工課）

■ 参加申し込み

出欠席を9月24日（金）までに、別紙②にてFAXまたはメールで下記宛にご連絡下さい。

FAX 03-3345-7471 扶桑レクセル監査役室気付森林塾青水事務局宛

E-mail sinrinjyuku@fiberbit.net 森林塾青水事務局宛

以 上

●11月フィールドスタディのお知らせ

日時：11月6日（土曜日）～7日（日曜日）

内容：紅葉を楽しみながら、会のメインイベントである茅刈りと「山の口」終い行事を行います。
今年は火入れを行っているので、良い茅が育っていると思います。
大勢の参加をお待ちしています。



編集後記 ～ 塾長のつぶやき ～

- ◆ 塾の合い言葉＝飲水思源。水道の蛇口をひねっても水が出てくるとは限らない。蛇口の先に水が貯まっていなければ、そして又、水道管につながる川の上流のダムと水源の森がなければ、と言いつけてきた。

11号の編集作業でもうひとつ、大事なことに気がついた。蛇口の先に水があっても、蛇口が開かないと水が出てこない！！つまり、蛇口が故障するとダメという当たりまえの事に。実は編集担当は、本当の少数精鋭（一人は精鋭とは言いがたい？）。今回も、浅川さんに負担超過重で水道管が原稿という水がつまって蛇口がなかなか開かなかった、という次第。SOS を幹事会で出したら、川端さんが干天に水の救援隊。浅川さん、本当にご苦労さま。そして、川端臨時編集委員にありがとう！！

- ◆ 前号で「日本の里地・里山30；保全活動コンテスト」入選のお知らせをした。ともによろこびながらも、“これがゴールではなく始まり”と問題意識を共有した。

今号では、「緑と水の森林基金」からの助成金決定のお知らせ。対象事業は、藤原集落で眠っている地域資源＝宝物の再発見とその活用案の策定。事業期間はこの9月から来年の8月末までのたった1年間。コンテスト入選同様、いやもっと気を引き締めて、具体化に向けて早期かつ着実に実行計画策定をと思うもの。

余生さて如何にせんとして余^む零^か子^こ食む （青）

PS：遅ればせながら、原稿をいただいた富田さん、出水さん、海老沢さん、川端さん、そして瑞季ちゃん（浅川さんのお嬢さん）、ありがとうございました。

十二様の読み方と出自について

藤原での十二様	記紀神話の神	出 自
以下4神は イザナギ、イザナミの子です		
大山祇神	大山津見神 (おおやまつみのかみ)	山の神、山の精霊を支配、造酒の祖神
奴津知神	阿遇突智神 (かぐつちのかみ)	この神を生んだためにイザナミは陰所を焼かれてなくなった
久々能知神	久久能智神 (くぐのちのかみ)	木材の守護神
加屋野姫神	鹿屋野比売神 (かやのひめのかみ)	野の神、草の祖神 野椎の神ともいう
以下 山津見八神 といい、阿遇突智神の子です		
原山祇神	原山津見神 (はらやまつみのまみ)	山頂が平らな山の神 原＝腹 阿愚突智神の左足から生まれる
葉山住神	羽山津見神 (はやまつみのかみ)	端山を守る神 右手から生まれる
於久山住神	奥山津見神 (おくやまつみのかみ)	奥山に住む神 腹から生まれる
志気山住神	志芸山津見神 (しぎやまつみのかみ)	樹木の生い茂った神 左手から生まれる
久良山住神	闇山津美神 (くらやまつみのかみ)	谷(闇)を守る神 陰所から生まれる
於止山住神	淤藤山津見神 (おどやまつみのかみ)	山の中腹に住む神 胸から生まれる
戸山祇神	戸山津見神 (とやまつみのかみ)	奥山に対する外山の神 右足から生まれる
満佐加山住神	正鹿山津見神 (まさかやまつみのかみ)	峻岳に住む神 頭から生まれる

送信先	E-MAIL sinrinjyuku@fiberbit.net
	FAX 03-3345-7471
	扶桑レクセル監査役室気付森林塾青水事務局

出 欠 連 絡 票

10月フィールドステディに (右記のどちらかに ○印してください)		参加します		欠席します		
お 名 前						
E-MAIL メール連絡可の方ご記入ください						
通 信 欄	車	電車	24日昼食	24日夕食	24日宿泊	25日昼食
希望の箇所に○印を付けてください						
ご欠席の方特にご記入願います						